

健康への

メッセージ

シリーズ 144

上気道炎

12月になり徐々に寒さの厳しき頃となりました。今回は上気道炎についての話です。一般には風邪、感冒等と呼ばれていますが、人体の臓器の中で外部から呼吸に関係する肺に達する通路の中に入り口の部分の話です。たかが風邪、されど風邪です。進行すると気管支炎や肺炎を合併し、高齢者や乳幼児にとっては命取りとなることもあります。

上気道とは呼吸器系の中でより口に近い部分であり、鼻腔・咽頭・喉頭部から成り立ちます。なお、下気道とは気管支や肺臓です。外界に一番近い部分であり、種々の異物や細菌、ウイルスに接する場所です。上気道は本来の機能として吸気に適度な湿度を与える空調機構、嚥下、嗅覚、構音、発声などに関連する部位です。また、生体の防御機構の一つとして粘液纖毛作用や局所の免疫反応も有ります。

感染の部位により咽頭炎や、扁桃腺炎、喉頭炎などと呼ばれますが近接しているために一括して上気道炎と称されています。細菌感染による場合には有効な抗生物質を用いた治療が必要ですが、ウイルス感染の場合には後に述べるインフルエンザ以外には有効な薬はなく、咳や咽頭痛などの症状を和らげる薬しかありません。発熱に関しては無理に下げる必要はないとの説があります。



東陽病院 院長 伊藤 文憲

大部分の上気道炎は安静・投薬により軽快します。しかし、インフルエ

ンザは別です。毎年流行を繰り返しており、数十年に一度は世界規模での大流行を起こしています。第一次大戦終了間際の1918年のスペイン風邪は全世界で約2000万人以上が死亡し、我が国でも27万人が死亡したと言われています。1957年のアジア風邪、1968年の香港風邪、1977年にはソ連風邪等があります。いずれもウイルス本体が抗原性を変異させて起こったものです。最近でも鳥インフルエンザなどが話題となっています。人間世界への進展が無いように祈るしかありません。

現在のインフルエンザウイルスにはA・B型があります。最近のインフルエンザに対する診断・治療の進歩はめざましく、ウイルス抗原を迅速診断キットにより15分以内に診断できるようになりました。またウイルスに対する治療薬も開発されています。

しかし、インフルエンザは空気感染により周囲に急速に拡大します。小児や高齢者など抵抗力の弱い場合には、高熱や摂食不良などから重症化して肺炎などになり、生命の危険も生じます。予防法としてワクチンが開発されています。感染予防のためにワクチンの接種を受けましょう。なお、他に病気を持つ人や幼児、高齢者及びその家族の方は必ず受けた方が良いでしょう。

お知らせ

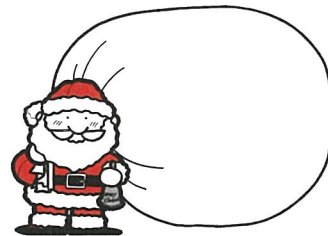
※相談窓口開設日 12日(月)午前9時～正午

※救急当番日 23日(祝) 31日(土)午前8時30分～午後5時15分

医師2名が待機。来院の際はお電話を☎1333

クリスマス映画会

『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』



ほんの



=町立図書館=
☎3311

日時 12月25日(日)午前10時・2時
場所 図書館2階ハイビジョンホール
定員 120名
入場 整理券(無料)を12月10日(土)から図書館カウンターで配布します。

個人貸出冊数が500万冊を超えました!!

図書館では11月19日、平成6年11月の開館からの累積個人貸出冊数が500万冊を超えました。図書館は11月3日に11周年を迎えました。これからもより多くの方に利用していただけるよう、資料・情報収集の充実に努めてまいります。

12月及び年末年始の休館日

12月5日(月)、6日(火)、12日(月)、19日(月)、26日(月)、29日(木)～1月4日(水)